四日市市立
港中学校だより

青葉匂う

令和６年１月15日
No.15 発行：校長

新年あけましておめでとうございます

昨年は保護者の皆様、地域の皆様にはたいへんお世話になり、誠にありがとうございました。本年も変わらぬご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

いよいよ３学期が始まりました。１月は１年のスタートの月ですが、学校においては１年の締めくくりの時期でもあります。１、２年生には来年度１つ学年が上がることへの準備、そして、３年生には卒業に向け、また、それぞれの進路に向けて有終の美が飾れるよう頑張ってほしいと思います。

１月９日（火）３学期始業式では、校長から次のお話をしました。

ある高校の養護の先生のお話です。その先生は港中を 20 年以上前に卒業したそうです。その先生がおっしゃるには、その高校の１年生に港中の卒業生がいて、その生徒たちと「ある歌」で盛り上がったというのです。

「ある歌」というのは「See you again」という歌で、もう 30 年以上前から港中の卒業式で必ず歌われています。その先生は 20 年以上前に卒業したのに、まだその歌を自分が覚えていて、そして、今年入学した港中の卒業生もその歌が歌える。30 年以上もの長い間、ずっと港中の卒業式で歌われ続けていて、港中の卒業生なら今でもみんなが歌うことができるということに、すごく感動したとのことでした。

毎年、３学期になると音楽の授業で「See you again」を練習するので、２、３年生は知っていますね。１年生はもうすぐ習います。

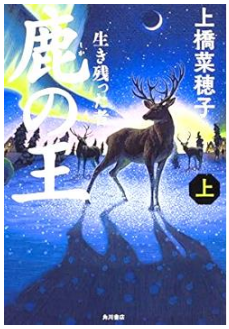
この歌は、３０年以上前に、港中の体育の先生だった長島りょうがん先生が作詞作曲したものです。３年生は１年生のときの人権講演会でお話してもらったので、覚えている人もいるかと思います。

僕らはきっと思い出すだろう
支え合ったこと　仲間たちのこと
振り向かずに　旅立とう　風に乗って
約束しよう　笑顔で　See you again

この話を聞いて、「母校っていいな」と思いました。どんなに歳を重ねても自分の母校はかわりません。でも、母校の思い出が、良いものになるのか、そうでないものになるのかは、その人自身の問題です。だから、ここにいる全員にとって、港中を卒業して何年経っても、年齢を重ねても、港中が誇れる母校であってほしいと思います。

３学期、仲間たちと「ともに港中学校をより良い学校」にする、「みんなにとって過ごしやすい学校」にするため、がんばってください。

校 長 雑 感 ～ 学校は予防接種？ ～



以前、学校の図書室で借りた本の中で、なるほどと思った本がありました。「鹿の王」（著者：上橋菜穂子）、2015 年“本屋大賞”を受賞した作品なので読まれた方も多いのではないでしょうか。架空の世界が舞台で、謎の病気から生き延び、過酷な運命に立ち向かいながら旅を続ける血のつながらない父と娘、そして病と戦う一人の若き医術師を中心とした冒険ファンタジー小説です。

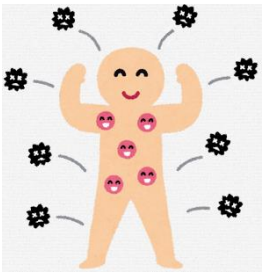
なるほど、上手いこと書いたなと思ったのは、次の医術師のセリフです。

『私たちの身体は、ひとつの国みたいなものなんだ。実に様々な、目に見えぬ、ごくごく小さなモノたちが住んでいて、休むことなく連携を保ちながら働いている。そうやって、私たちの身体は生かされているんだ。』

『たとえば、兵士のような役割をしているものがいて、敵が身体の中に入ってきても、それを殺してしまうんだよ。ただ、外から身体の中に入ってきたものがすべて悪さをする敵ということではない。利益をもたらしてくれる商人たちもいる。だから、兵士たちは、入ってきたものが敵なのか、そうではないのかを瞬時に見分けなければならない。』

『既に敵だと知っていれば、即座に攻撃することができる。これが一度かかった病気に二度かからないことがある仕組みなのだよ。』

『＜弱毒薬＞というのは、暴れる力をなくした敵を身体の中に入れて、兵士たちに敵の顔を覚えさせて、その敵だけを攻撃する力を与える薬のようなものです。』



もちろん私は医学の専門家ではありませんが、免疫や予防接種のしくみについて上手く例えている気がして感心しました。そして、さらに思ったのは、私たちが実社会で上手に社会生活を送るためには、事前に様々な人々と関わり合っておくことが必要なこと、つまり、子ども・青年時代に学校生活を送る意義は、実社会に出る前に、異質な者（敵？）と学校で出会っておいて、免疫力をつけるようなものだとすれば、学校は予防接種のしくみとよく似ているのかなと思いました。

言うまでもなく実世界、実社会にはいろんな人々がいます。それぞれ興味関心も違うし、考え方も異なります。気が合う人ばかりなら人間関係での苦労は少ないかもしれませんが、現実はそうではない。だから、学校では、たくさんの人と生活を共にする中で、自分とは考え方が異なる人がたくさんいることを知り、そんな人たちとも上手くやっていく術を学習するのだと思います。

学校においても人間関係のトラブルはあります。しかし、トラブルがないように配慮することが教育ではなく、トラブルが生じたとき、それに立ち向かえる力を育むことこそが大切だと思います。生徒たちがたくましく成長してくれることを願っています。